第２０回ティーミーティング　開催報告

■ティーミーティングとは

　室蘭市市民活動センターの登録団体や西胆振地域のＮＰＯ法人などが一堂に会して交流することで活動上の悩み事の解決や新しい活動へのつながり、助け合いを促し、市民活動の活発化を図り地域課題の解決につなげる活センの主催事業です。年１回開催し、活動に役立つ情報の提供も行います。

■第２０回ティーミーティング概要

テーマ：「市民活動は地域の宝」

「ティーミーティング」は、今回節目の２０回を迎えました。長く続けられてきた活動、新しく芽生え始めた活動、ともにこの地域を彩る宝物であると考えます。これまでの私たちの活動を振り返りながら、それぞれに抱えている課題とともに、これからの市民活動について必要なことや求められることなど、意見交換を行いました。

日時：２０２６年（令和８年）１月２４日（土）
　　１３：００～１５：３０
会場：ＦＫホールディングス生涯学習センターきらん　研修室
主催：室蘭市市民活動センター

当日次第

１．開会（主催者挨拶・市長挨拶）
２　トークセッション
　「市民活動は地域の宝」
３．意見交換（グループ討議）
４．グループ発表
５．交流タイム
６．まとめ・閉会

トークセッション　　「市民活動は地域の宝」　要旨

ゲストスピーカー：室蘭まちづくり放送株式会社　代表取締役社長　沼田 勇也さん

ＮＰＯ法人キウシト湿原・登別　　理事長　原田　綾さん

進　行：石崎 勝彦　（室蘭市市民活動センター　センター長）

意見交換に先立ち、市民活動に取り組むお二人に、活動での課題やこれからの市民活動の可能性についてお話を伺いました。

沼田さん

原田さん

■これまでの活動を振り返って・・・

(石崎)　自分たちの活動を振り返りつつ、 これからの活動についてお話ください。

(沼田)　ＦＭ びゅーは市民活動から始まったのですが、コミュニティＦＭ は、 原則株式会社じゃないと国から免許がもらえないので、会社設立を目指して活動してきました。ボランティア時代から通算すると２５年目です。地域の宝になっているかというとまだまだですが、逆に頑張っている皆さんが地域の宝で、その宝を多くの方に知ってもらうために放送しています。そういう意味では開局の前も後も皆さんにご支援ご協力をいただいており、本当に感謝しています。

なぜ放送局を作ったのかというと、西胆振は何でもあって恵まれた地域なのに、何もないとかつまらないと言う人が多くもったいないと思いました。この地域の本当の良さが伝えられていない。では伝えるために何かお手伝いをと考えた時にコミュニティ FM なら役に立てるかもしれないと思ったのですね。 この放送はみんなで使うことができます。今日参加している皆さんにも番組への出演や情報発信をしていただいていますが、大手の局と違い、みんなのラジオ局として皆さんで使ってもらえるところが、この放送局の良いところです。

開局前は「ぼこいふじエンターテイメント」という団体で活動をしていました。地域の皆さんの生活をサポートしようと、インターネット放送やイベント放送をしながら放送局を作りたいと伝え、皆さんから資金を提供いただいて放送局ができた、という流れです。今でも市民活動のようなボランティア精神でやっているので儲からないんですよね。(笑)

FM びゅーは地域に密着した情報を発信していますが、それだけではやっていけないのでイベントのお手伝いや司会、協賛金、サポーターズクラブなどで皆さんにご支援いただき運営しています。

コミュニティ FM は 20W の出力で電波を発信しますが、当時のＮＨＫの局長さんが、豆電球くらいの小さな電力で室蘭を笑顔にできるのなら、こんな便利な道具はない。ぜひみんなでやっていこうと言ってくれて感激したことを覚えています。開局 10 周年の時にある方から「ＦＭ びゅーができてから街が明るくなった」と言われ、ＮＨＫの局長さんの言葉と繋がって涙が出そうになりました。

開局以前の市民団体の頃に行っていたイベント放送。ヤマコしらかわ社長・白川浩一さんとのトークの模様。

今は伊達市に「ワイラジオ」というラジオ局も作り、共同運用の放送で西胆振全域をカバーしています。FM びゅーでノウハウができ、ワイラジオのほか栗山町や苫小牧での開局もお手伝いしました。

社員はアルバイト含めて９名、ボランティアが 70 人くらいで 40 番組を作っています。今もたくさんの方が番組に出演して色々な情報を発信していますが、皆さんもぜひ、番組で活動をＰＲしたり、スポンサーをつけて番組を作っていただけるとありがたいです。ボランティア番組は日ごろの活動が多くの人に伝わるのと、仕事とは別に地域の役に立てるということで、皆さんとてもやりがいを持って続けています。そんな中で私も色々経験させていただいたり、色んな役割を担わせていただき、皆さんに育ててもらっていると感じています。

（原田）　私は２０２０年４月まで普通の主婦で、 キウシト湿原に関わってまだ 5, 6 年しかたっていません。登別市の子ども会の研修部長をやっていた時に子どもの研修場所としてキウシトを知り、それから行くようになって、先代の理事長にスカウトされ携わるようになりました。

キウシトという言葉はアイヌ語で「カヤ、群生する、走り根」という意味で、簡単に言うと 「ススキがたくさん生えているところ」という意味です。約 4.8 ヘクタールで東京ドーム１個分くらいの湿原が、 住宅街の真ん中にポツンとあります。この湿原、 何が大事なのかというとミズゴケです。お饅頭のように盛り上がった形でミズゴケがたくさんあるのです。これ実は日本で３カ所しかありません。この大事な宝を守っていこうと、初代理事長とふるさと自然情報局のメンバーが調査しながら２８年前に活動が始まりました。そして、２０１３年に「ＮＰＯ法人キウシト湿原・ 登別」が設立され、２０１５年に都市公園としてオープンしました。あくまでもこの湿原は登別市の持ち物で、私たちが委託を受けて管理しています。スタッフは７名ですが主婦がほとんどで、そこにボランティアの方がサポートしてくれています。私たちが、というより、市やボランティア会員など、みんなで支えているＮＰＯです。

そんな私たちなので、専門的なことは何も分からない状態で活動しています。それで、登別市が日本湿地学会会長の矢部和夫先生に専門家として依頼し、現在は、この三者協働でキウシト湿原か守られています。

キウシト湿原でオオハンゴンソウ（外来種）の駆除を手伝うキウシトキッズたち。

そのような中で、地域で守っていこうと、去年「キウシトきっず」という団体を立ち上げました。小学生であれば、住んでいる地域に関係なく入る事ができます。活動は外来種のオオハンゴンソウの駆除で、どんな方法が一番駆除できるのか研究しながら、子どもたちは虫や暑さと闘い駆除作業をしてくれました。それを FM びゅーさんや新聞社が取材し、その記事を見た大人が「手伝いに行くよ」と来てくれます。こうして地域のみんなが参加してくれる、そんな湿原になってきているのではないかと感じています。

また、インプットしたものをアウトプットする場を設けたいと、去年 11 月に登別市民会館で「子ども環境保全フォーラム」を開きました。200 人以上が来場し、子どもたちが一生懸命発表する姿を見て、ボランティアになるよという方がここでもたくさん出てきて、とてもうれしかったです。

初代のメンバーはほとんどが 70 歳以上になり、3 代目の私たちは 40 代が中心となって会を支えています。先代、先々代の理事長も、今でも私たちに助言してくれ、私たちを育ててくれています。温かい言葉や温かい目で見守っていただき、本当に先輩たちのやさしさに感謝しています。感謝しながら、その先輩たちに恩を返すのではなく、次の世代に恩を送っていくという「恩送り」をしていくために、これからも私たちは頑張っていこうと思っています。

■大事にしていることとは・・・

(石崎)　沼田さんは市民活動から会社を立ち上げ、現在もボランティアの感覚を大事に活動しているということですが、改めて今、何を大事にしているのでしょうか。

(沼田)　地域の皆さんと一緒に作った放送局で、色々な方が期待し、また支援していただいているので、何としてでも守っていかなければと思っています。それで、ぷれびゅー（番組表）の後ろに今まで協賛していただいた方のお名前を毎号載せています。「もういいのでは。 その分広告載せた方が収入になるでしょう」 と言われますが、そこが私の儲けられないところなんです。

これは石碑のようなもので、20 代の若者が放送局を作りたいので協力をと、資金集めに回った時に、何も言わずに協賛してくれた方がたくさんいて、その方たちがいなかったら今の自分はいないんです。 そのことを開局当時を知らない多くの人たちにも伝えたくて、今でも載せています。

地域のみんなで作った道具を守り、これからもメディアとして活用してもらい続けるためこの放送局を潰しちゃいけないし、もっと皆さんが使いやすくなるよう維持していきたい、という思いを大切にしています。

(石崎)　原田さんは、 理事長を引き継いで、 運営で意識して取り組んでいることは何ですか?

(原田)　どの団体も世代交代が大きなテーマになっていると思います。団体が形になってくると、自分たちだけで固まってしまったり、特に私たちのように環境とか自然とかの活動だと、きれいごとだけではないため入ってきにくいと思うので、まず、入って来やすい環境作りをしようと考えました。どんな方でも初めの一歩を踏み出せるというのをテーマにして、活動しています。

キウシト湿原は学びの場として作られたのですが、癒しの場としても位置付けされているので、皆さんがゆっくりと散歩に来たり、スタッフとおしゃべりしに来たりとか、そういうきっかけ作りを私たちが作っていけたらいいなと思って日々活動しています。

■次の世代に向けて・・・

(石崎)　世代交代という言葉が出ましたが、 これからの活動で何か考えていることがありますか。

(原田)　世代交代して 3 年目になりますが、もう今から次の世代を探しています。ここは植物や鳥や生き物などの知識を頭に入れないと運営できないので、次の世代に難しい知識をいかに簡単に伝えるか考えながら、今、次の世代のための資料作りをしています。「次の世代が楽しくついていけるように」をテーマにこれからもやっていきたいですね。

キウシト湿原は登別市の持ち物なので、これからも市と協力して運営していきたいと思います。委託金と寄付だけで運営し財力もありません。会場の後ろに子ども達が作ったステッカーやバッジがありますので、もし良ければ買っていただき寄付いただけたら嬉しいです。

(石崎)　沼田さんは市民活動に関わってきたと思いますが、 これからはいかがでしょうか。

(沼田)　今 FM びゅーを活用している団体は幅広い年齢層で、世代交代に不安をもっている団体もたくさんありますが、団体の活動を知ってもらうためにもラジオを活用して欲しいと思います。今は若者向けの深夜番組は高校生に大人気です。これまで若者向け番組がなかったので聴かなかった人も、コンテンツがあれば、若者も聴くということが分かってきました。スマートフォンでも聴けます。

生活情報を発信する場なので、近くにおいしいお店ができたとか、みんなが行ける情報を流しているので、関係ないという人はいないんです。それを高校生に話すと、便利だということが分かり聞いてくれるきっかけになります。若い人に活動を知ってもらうことが必要で、そのきっかけにラジオが最適な道具の一つなのではないかと思っています。

■意見交換・グループ発表　要旨

トークセッションの後、６グループに分かれ、市民活動について思うことをざっくばらんに話し合いました。

■これまでの活動を振り返って

各団体が活動を振り返り、成果や課題などを出し合いました。

長く続けている団体からは・・・

・継続することで活動が市民に浸透してきた
・団体として、やりたいことが見えてきた
・活動範囲が広がってきた
・主催するイベントの参加者が増えてきた

など、続けることによる一連の成果も出てきています。

新しい団体からは・・・

・活動が新聞記事になり、徐々に会員が増えてきた
・市民向けの催しで活動を PR できたので、定期的に実施していきたい

など、初期に活動を周知することで今後につながることがわかりました。

また、コロナ禍で活動を休止したが落ち着いてもなかなか再開できない、有珠山噴火をきっかけにできた防災関係の団体から「災害が起きると注目されるが、次第に風化して市民の関心がなくなる」という現状も報告されました。

課題としては、会員不足やスタッフの高齢化、企画のマンネリ化、活動資金の先細りなどが多くの団体から出されました。

■市民活動のこれからについて

これからの市民活動に何が必要かについて意見交換しました。

・今回のような団体同士の情報交換の場
・イベントなどでの団体間の協力・連携
・SNS や FM びゅーなどを活用した活動の PR
・新しい企画
・町内会とのつながり
・活動資金獲得の勉強会
・活動の場の確保（合唱の団体）
・後継者の確保
・若い世代へのアプローチ

など、これからの市民活動に必要なことが浮き彫りになりました。

また、会場費等の経費の節減や助成金の活用といった活動資金にまつわる話題のほか、「こどもたちにとって、地域のコミュニティに参加する経験はきわめて大切」「たくさんの市民や団体が元気に楽しく活動していることは地域の明るさや暮らしやすさにつながる」市民活動の目指すところについても共有することができました。

オブザーバー　室蘭市生活環境部地域生活課　西村　博恵　課長補佐　コメント

今回は様々な分野で活動されている皆さんの率直なお話を伺いまして、大変有意義な時間であったと感じています。 前半の基調講演では、室蘭地域の魅力を内外に伝えたいというまちへの思いから、室蘭の今やインフラとなっているコミュニティＦＭを作られたという貴重な話を沼田社長から伺い、今後も大切に意識していきたいと率直に感じましたし、原田理事長の活動からは、本来の自然の保全という活動を通じてこどもの居場所作りやこどもの主体性を育てるという観点は貴重かつとても参考になる活動ではないかと感じました。

意見交換会で参加者皆さんのお話を伺い、率直に感じたのは、各分野を深掘りしている皆さんというのは、この地域の魅力、資源や人をとてもよく知っているのだと感じまして、その方々の活動の情報発信っていうのは、イコールまちのＰＲになるものだなというのを改めて感じました。

市としましては、市民活動センターの皆さんと連携しまして、今後も活動しやすい環境作りを後押ししてまいりたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

ティーミーティングを終えて　　室蘭市市民活動センター　センター長　石崎　勝彦

今回のトークセッションでは「若者世代との連携」「世代交代」というテーマに対し実例を交えた提言をいただき、各活動の参考になるのではと感じています。意見交換では「団体同士の情報交換の場をもっと増やして」という要望が多く、中でも「団体運営に必要なことなどの勉強会を定期的に開いてほしい」という具体的な提案も出され、市民活動センターの今後の課題ととらえます。

また、「活動を PR して会員を増やしたい」という課題に対し、「参加してほしい対象にターゲットを絞ったポスターやチラシを作ると効果的」という意見が出されたり、「活動資金が足りない」という課題に、「実績があるので、助成金の活用についての講座を開くことができる」という団体もあり、各団体が持つノウハウも活用しながら、団体同士の連携を図っていくことで、より活動の強化につながるのではないかと感じました。

市民活動センターは、２００６年に開館し今年２０周年を迎えます。今回浮き彫りになった課題に対し、今後当センターとして何ができるか、何をしなければならないか、という方向性も見えてきたので、新たな企画も取り入れながら、これからも市民活動の拠点として団体の皆様を応援していきたいと思います。

参加アンケートから

今回のトークセッションに対し、興味深かった、参考になったとの回答を多くいただいたことからも、有意義な開催であったと思われます。しかし、本行事の趣旨のひとつ、参加団体間との交流について、あまりできなかったとの回答を一定数いただいており、今後に向けて工夫を図っていきたいと考えています。

今後のテーマについては、助成金・資金作り、観光促進、団体間のマッチングなど具体的な提案をいただいていることから、実現に向けて検討を図っていきたいと考えています。

第２０回ティーミーティング　参加者一覧　　（敬称略）

団　体　名	参加者氏名	
ＮＰＯ法人　いきものいんく	加藤　康大	―
ＮＰＯ法人　有珠火山の会	佐藤　重理	石川　富士雄
おもてなし室蘭	吉田　みゆき	―
子どもの幸せな未来を考える会	久保　洋一	―
c＊m craft　工房（チョコミル　クラフト）	氏家　香織	原　えりか
公益社団法人　日本詩吟学院室蘭支部	本間　心岳	加藤　岳靜
ＮＰＯ法人　ビオトープ・イタンキ in 室蘭	磯田　広史	―
B&G 室蘭海洋クラブ	江良　幸雄	―
室蘭ウォ-キング協会	吉田　　均	渡辺　真一
室蘭きのこの会	橋本　忠雄	牛田　博克
室蘭巨樹の会	成田　弘	―
室蘭更生保護女性会	谷口　ゆみ子	宮林　秀子
室蘭港を愛する会	原　えりか	―
室蘭シーカヤッククラブ	江良　幸雄	―
室蘭市悠悠ライフ教養講座	山本　美栄	―
室蘭地方史研究会	平井　克彦	
室蘭てつのまち振興会	山田　正樹	平賀　由美
室蘭友の会	五十嵐　美恵	―
室蘭ファシリ隊	坂本　瑞穂	土屋　千恵子
	野沢　祥代	―
室蘭マンガ・アニメ祭実行委員会	西野　敬史	―
明治大正少年少女合唱団	井村　雄一	―
本輪西ほたるの会	工藤　英夫	蜂谷　クニ子
	坂元　絵美子	田中　恵美子
蘭歴建見会	吉田　幸恵	―
ＮＰＯ法人　ひだまりの森	河村　由加子	―
室蘭市町内連合会	須田　貞文	渡部　信人

（ゲストスピーカー）

ＮＰＯ法人キウシト湿原・登別	原田　綾
室蘭まちづくり放送株式会社（FM びゅー）	沼田　勇也

（オブザーバー）

室蘭市生活環境部　地域生活課　課長補佐	西村　博恵
〃　　主任	佐藤　路子

（事務局）

室蘭市市民活動センター	三木 真由美	石崎　勝彦	木下　宏子
	工藤 恵美子	髙橋　伸枝	髙橋　幸恵

室蘭市市民活動センター
〒050-0074
室蘭市中島町２－２２－１　ＦＫホールディングス生涯学習センターきらん　２階
TEL　0143-83-7751
FAX　0143-83-7335
E-mail　katsudo@kujiran.net
URL　https://www.kujiran.net/katsudo/

活センHP
二次元バーコード